

## 6 授業科目の目的および講師

	科目	単位数	時間数	目的	講師名	所属
基礎分野	生物学	1	30	生体における生命が示す現象を学び、生命の誕生や生体維持について考え、生命への尊敬や畏敬について学ぶ。また、生物の生活と密接に関係する環境とのかかわりについて理解する。	渡辺 雅夫	元山口大学
	情報科学	1	30	情報の概念や情報処理の基本を理解し、情報学の医療や看護にとつての必要性を理解する。情報技術の急速な進歩に対応できるよう情報伝達・処理などコンピューターの操作を理解し、看護への活用を考える手掛かりとする。また、教育、医療・看護におけるICT活用の現状を理解する。	酒井 徹也	周南公立大学
	論理的思考の基礎	1	15	自己の思考を深めるために問題意識をもち、論理的な思考ができ、それを文章表現できることを目的とする。論理的な文章を作成することで主体的な判断能力、推論能力を高めるための基礎的知識を学修する。臨床判断を行う基盤として考える力の修得を目指し、基礎的な文章読解力・思考力・論理的表現力に関する演習を行う。	三宅 英明	YIC
	看護のための英会話	1	15	看護に必要な医療英語および医療現場で必要とされる英会話での基礎的コミュニケーション力を習得する。	Paul Rowlands	外部講師
	運動と健康	1	15	運動と健康との関連および健康づくりのための活動を理解し、スポーツをとおして運動の必要性と生涯スポーツとの関連について学ぶ。	水崎 祐毅	周南公立大学
	人間関係論	1	30	看護実践において必要となる人間関係のダイナミズムを理解する。また、目的に応じた役割関係を展開する人間関係形成能力とコミュニケーション能力を養う。人間を人との関係で生き成長する存在ととらえ、人間関係を円滑に保つ必要とその方法について理解する。演習を通して体験することで、自分と他人の違いを知り、円滑なコミュニケーションに必要な「多様性」を受け入れることに繋がる。	林 伸一	元山口大学
	心理学	1	30	人間の心理や行動の基礎にある原理を理解し、看護実践の場においてのよりよい人間関係を模索する。	福田 廣	元山口東京理科大学
	行動科学	1	30	人間の行動の成立と変化のメカニズムについて理解し、看護場面においてよりよい人間関係を成立、発展させるための基礎的能力を養う。	福田 廣	元山口東京理科大学
	社会学	1	15	社会学の概要および病気と医療を対象とする医療社会学としての基礎を学ぶ。また、人間と社会とのかかわりについて学び、現代社会の現状や問題と医療・看護がどのように関連しているかを理解する。	瀬崎 譲廣	外部講師
	地域防災学	1	15	災害発生メカニズムと防災の基本を学ぶとともに、被害を最小化するための平時から復旧・復興期までの災害対策を考え、地域自治体の防災への取り組みの実践的知識について理解する。また、災害時には支援やボランティア活動を担えるよう習得する。	瀧本 浩一	山口大学
	カウンセリング理論と技法	1	15	カウンセリングの基礎となる理論とコミュニケーションスキルを学び、実際の看護場面で適切なコミュニケーションができる基礎的知識について理解する。実践的な演習を通して、カウンセリングの技法を習得する。	山下 清可	YICグループ統括本部総合支援室
	文化人類学	1	30	人類学は人を総合的に理解しようとする学問分野であり、その一分野である文化人類学は社会文化的存在としての人間に焦点をあてる。本授業では文化人類学の視点と方法を理解した上で、その視点と方法を用いて病むこととそのケアに関わるさまざまなものごとやできごとを読み解いていく。	星野 晋	山口大学

	科目	単位数	時間数	目的	講師名	所属
	教育学	1	30	人間形成にとって重要である教育の必要性や学ぶことの意味を考え、日本の教育の現状や教育問題が抱える課題について理解する。看護における教育的役割や生涯教育の意義について理解を深め、看護実践に応用するための視点について理解する。	原田 拓馬	山口大学
	芸術と看護	1	15	豊かな感性を養い、情緒的発達を促すための音楽の必要性と、多様な音楽が日常生活に与える影響について理解する。また、さまざまなジャンルの音楽を体験し、音楽から得られる一体感、協調性などを養う。	モチエオ久美	外部講師
	小計	14	315			

	科目	単位数	時間数	目的	講師名	所属
専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ	1	30	看護の対象である人体の構造と機能(身体の支持と運動・栄養の消化と吸収)について、各器官の部位、構造と機能を系統的に学修する。解剖生理学Ⅰは身体の支持と運動・栄養の消化と吸収において、後に続く病態の理解や対象の健康障害を理解するために重要な科目であり、疾病により生じる構造と機能の変化に対して観察力の基盤となる。	村瀬 ひろみ	外部講師
	解剖生理学Ⅱ	1	30	看護の対象である人体の構造と機能(呼吸と血液のはたらき・血液の循環とその調節)について、各器官の部位、構造と機能を系統的に学修する。解剖生理学Ⅱは呼吸と血液のはたらき等において、後に続く病態の理解や対象の健康障害を理解するために重要な科目であり、疾病により生じる構造と機能の変化に対して観察力の基盤となる。	野島 順三	山口大学
	解剖生理学Ⅲ	1	30 (16) (14)	看護の対象である人体の構造と機能(体液の調節と尿の生成・内蔵機能の調節・生殖・発生と老化のしくみ)について、各器官の部位、構造と機能を系統的に学修する。解剖生理学Ⅲは体液や内臓機能の調節等において、後に続く病態の理解や対象の健康障害を理解するために重要な科目であり、疾病により生じる構造と機能の変化に対して観察力の基盤となる。	野島 順三	山口大学
					澤田 知夫	元山口大学
	解剖生理学Ⅳ	1	30 (10) (6) (4) (10)	看護の対象である人体の構造と機能(情報の受容と処理・身体機能の防御と適応)について、各器官の部位、構造と機能を系統的に学修する。解剖生理学Ⅳは情報の受容と処理・身体機能の防御と適応において、後に続く病態の理解や対象の健康障害を理解するために重要な科目であり、疾病により生じる構造と機能の変化に対して観察力の基盤となる。	木田 裕之	山口大学
					崎本 裕也	山口大学
					石川 淳子	山口大学
					澤田 知夫	元山口大学
	生化学	1	30	生体を構成する糖質や脂質、たんぱく質、核酸を中心に、構造と機能および代謝について理解を深める。生物のエネルギー獲得のための代謝系について、医療従事者に必要な生命活動に対する基礎的知識や遺伝情報とその発現の方法を理解する。	村上柳太郎	山口大学
	栄養学	1	30	人間にとって栄養の意義と健康な生活を営むための適正な栄養、食事の摂り方について学修する。	原田 綾子	外部講師
病理学	1	30	体の基本構造と病因の分類や細胞・組織の損傷と修復過程について学修する。自然免疫と適応免疫・細胞性免疫と液性免疫および炎症反応・アレルギー・自己免疫疾患の発症機序を学修する。先天異常・遺伝子異常や代謝障害に伴う病態および腫瘍の分類や癌の転移と進行度と腫瘍の診断と治療法を学修する。	野島 順三	山口大学	
病態論Ⅰ	1	30 (10) (8) (4) (8)	解剖生理学の知識をもとに、循環機能障害、呼吸機能障害、内分泌・代謝機能障害における症状と病態生理、検査と治療、主な疾患の理解について基礎的知識を学修する。病気がどのような病態に基づいているのか、その原因を明らかにするための検査や治療の概略を系統的に学修し、看護実践に必要な基礎的知識を習得する。	上田 亨	うえだ内科・循環器クリニック	
				池田 安宏	山口県立総合医療センター	
				金田 好和	山口県立総合医療センター	
				東 真由美	学科長	
病態論Ⅱ	1	30 (20) (10)	解剖生理学の知識をもとに、消化・吸収機能障害、造血機能障害、アレルギー・膠原病・感染症における症状と病態生理、検査と治療、主な疾患の理解について基礎的知識を学修する。病気がどのような病態に基づいているのか、その原因を明らかにするための検査や治療の概略を系統的に学修し、看護実践に必要な基礎的知識を習得する。	大津山賢一郎	山口大学	
				若林 一樹	専任教員	

	科目	単位数	時間数	目的	講師名	所属
専門基礎分野	病態論Ⅲ	1	30 (12) (8) (6) (4)	解剖生理学の知識をもとに、脳・神経機能障害、運動器機能障害、排泄機能障害における症状と病態生理、検査と治療、主な疾患の理解について基礎的知識を学修する。病気がどのような病態に基づいているのか、その原因を明らかにするための検査や治療の概略を系統的に学修し、看護実践に必要な基礎的知識を習得する。	長谷 亮佑	山口大学
					坂本 相哲	小郡第一病院
					東 真由美	学科長
					佐甲 美和	専任教員
	病態論Ⅳ	1	15	小児期における主な機能障害の原因・病態・検査・治療について理解する。	磯部 純子	専任教員
	病態論Ⅴ	1	15	女性のライフサイクルにおける疾患や妊娠・分娩・産褥・新生児・における異常の原因・病態・検査・治療について学ぶ。	吉本 美恵	専任教員
	病態論Ⅵ	1	15	代表的な精神疾患について症状や経過を理解し、診断・治療リハビリテーションなどの対処方法を学ぶ。	吉次 徹	医療法人 貴和会 防府病院
	微生物学	1	30	微生物についての基礎知識、感染と発病、感染の予防と治療について学び、生態に及ぼす影響とその対応方法を学ぶ。	常岡 英弘	山口大学
	医療放射線学	1	15 (2) (4) (2) (2) (6)	放射線を用いた検査と放射線治療の適応と有効性、人体に及ぼす影響について学ぶ。	山下 雅刀	山口県立総合 医療センター
					小池 正紘	山口大学医学部 附属病院
					山根 正聡	山口大学医学部 附属病院
					田辺 昌寛	山口大学医学部 附属病院
					鮎川 香苗	山口県立総合 医療センター
	薬理学	1	30	薬物についての基礎的知識を理解し、薬物の特徴、作用機序、人体への影響について理解する。	乾 誠	校長
保健統計	1	15	保健統計は保健・医療・看護の分野での問題を考える上で必要な統計学の基礎を理解し、保健情報を学ぶのに応用できる科目である。授業では、基礎的な統計学の知識を説明し、さらに、あるデータが得られた時にどのような統計方法が使えるか(使うべきか)、またその統計処理した結果をどう読み取るかを説明する。さらに人口静態統計、人口動態統計の基礎的なものを理解する。	酒井 徹也	周南公立大学	
公衆衛生学	1	30	集団の疾病予防や健康の維持・増進を目的とする公衆衛生の概念と基本的な内容や、人々の健康が自然・社会・文化的環境と強くかかわっていることを理解する。さらに人々の生涯にわたる健康に関する諸制度の整備と保健活動を組織的に推進するものであることを学修する。	伊藤 悦子	元YIC校長	
社会福祉Ⅰ	1	15	社会保障と社会福祉の理念および社会の中で生活する人々の生活問題に対する法律や施策の基礎的知識について学修する。	佐藤 正昭	外部講師	
社会福祉Ⅱ	1	15	社会保障制度のうち、社会福祉における各分野の実態と課題を知り、それに対する施策を学ぶとともに、医療現場、地域社会等多様な現場で展開される社会福祉実践の共通基盤としての援助の種類や方法を学修する。	横山 順一	至誠館大学	
家族看護	1	15	さまざまな健康レベルにおける家族のヘルスニーズや健康問題によって発生する課題を理解し、家族機能を高めるための看護を学修する。	伊東 美佐江	山口大学	

	科 目	単位数	時間数	目 的	講師名	所 属
	看護関連法令	1	15	保健・医療・福祉に関する諸法規の概要を学び、看護師としての責任と義務を理解する。看護専門職者として必要な看護に関する法規の基本的事項を学ぶ。厚生行政関連法、医療法、薬事関連法規、医師法、保健師助産師看護師法などの医療関係法規を重点に理解する。	今川 晋平	みどり保育園
	小計	22	525			

	科目	単位数	時間数	目的	講師名	所属
専門分野	看護学概論	1	30	看護の概念を捉え、看護の位置づけと役割を学ぶ。	野崎 美紀	副校長
	看護倫理	1	15	倫理とは何か、なぜ倫理を学ぶのかを学生自身が考えることから学ぶ。現在の倫理問題を調べ発表することで、倫理問題の理解を深める。倫理原則を理解し、事例を通して演習を行うことで倫理的ジレンマを考え抜く姿勢を身につける。□	東 真由美	学科長
	共通基本看護技術Ⅰ	1	30	看護の基本となる対象とのコミュニケーション技術と安全を守る技術の基礎を習得する。	高橋 朋子 隅 敦子	専任教員 専任教員
	共通基本看護技術Ⅱ	1	30 (26) (4)	対象の健康状態を客観的に・系統的に把握するための身体計測、バイタルサインとフィジカルアセスメントに必要な技術を習得する。□	三好 恭子	専任教員
					田中 勝男	周東総合病院
	看護過程Ⅰ	1	15	看護を個別的に展開する看護過程の考え方を理解し、看護問題を解決するための思考過程と問題解決方法を学ぶ。□	隅 敦子	専任教員
	看護過程Ⅱ	1	30 (15) (15)	看護過程の基本理論を活用し、事例展開を通して看護問題解決方法を実践する。	隅 敦子	専任教員
					三好 恭子	専任教員
	日常生活援助技術Ⅰ	1	30 (15) (15)	普段の生活とは異なる集団生活、治療の場としての療養環境にどのように看護師がかかわるかを中心に環境調整の技術を学ぶ。また、活動・休息の援助技術は、姿勢の基本からはじめ、実際の道具を用いながら技術を習得する。	三好 恭子	専任教員
					高橋 朋子 若林 一樹	専任教員
	日常生活援助技術Ⅱ	1	30 (15) (15)	食事・排泄の意義、メカニズム、アセスメントの方法を学ぶ。実際に食事の介助、口腔ケア、おむつ交換、導尿を学生同士で体験し、対象の気持ちを考えた援助を習得する。	高橋 朋子	専任教員
					木村 美保	専任教員
	日常生活援助技術Ⅲ	1	30	清潔の援助技術は、実習で実践することの多い科目である。療養生活を送る対象に合わせた清潔の援助の方法を、皮膚などの解剖学と関連をしながら学ぶ。技術面は、全ての技術を体験して、どのように行うと患者にとって安全で快適かを考えながら実践し習得を目指す。	三好 恭子	専任教員
	診療補助技術	2	45 (12) (12) (21)	対象の病態を踏まえて、呼吸・循環を整える技術や与薬時の看護技術、診療・検査の補助などの侵襲を伴う看護技術を中心に学ぶ。実習中に体験できない技術を演習する。	高橋 朋子	専任教員
南田 直子					専任教員	
隅 敦子					専任教員	
地域・在宅看護論概論Ⅰ	1	15	地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における健康とライフステージにそった暮らしを支える看護の基礎的知識を学ぶ。	三好 恭子	専任教員	
地域・在宅看護論概論Ⅱ	1	15	社会の変化と多様化する在宅看護活動について学ぶ。疾患や障害を持ちながら在宅で生活している療養者及び家族の特性を知り、在宅看護における看護師の役割と機能について理解する。	木村 美保	専任教員	
地域・在宅看護論方法論Ⅰ	1	30 (28) (2)	地域で提供する看護や他機関・多職種連携における看護の役割を理解でき、健康の保持・増進および疾病の予防に関する看護の方法を学ぶ。	三好 恭子	専任教員	
				角 晴美	防府市福祉部高齢福祉課	
地域・在宅看護論方法論Ⅱ	1	30	在宅で提供する基礎的看護技術を習得するために、在宅での日常生活援助技術、医療処置の伴う医療機器を理解する。また使用している療養者及び家族へ支援について理解する。	木村 美保	専任教員	

	科目	単位数	時間数	目的	講師名	所属
専門分野	地域・在宅看護論方法論Ⅲ	1	30 (22) (4) (2) (2)	看護師が行う在宅ケアマネジメントについて理解する。また在宅での特徴的な事例の実際から、在宅看護の状態別に応じた看護展開を理解する。	木村 美保	専任教員
					原田 典子	原田訪問看護センター
					柴崎 恵子	美祢市訪問看護ステーション
					松谷 依子	外部講師
					渡邊 昭江	帝人在宅医療株式会社
	成人看護学概論	1	15	成人を取り巻く環境と成人各期における対象の身体機能の変化ならびに心理・社会的特性を理解する。また、健康から健康障害が連続体であることを捉え、成人期の健康障害と疾病予防、ヘルスプロモーションのための看護アプローチ、成人期における看護の役割を学ぶ。□	高橋 朋子	専任教員
	成人看護学方法論Ⅰ	1	30 (26) (4)	呼吸・循環機能障害を有する対象へ回復を促すための症状・検査や治療を理解し生活の再調整を促す看護を学修する。事例を通して、身体的・心理的・社会的特徴を理解した対象・家族への看護を学修する。	佐甲 美和	専任教員
					中山 典子	医療法人聖比留会セントヒル病院
	成人看護学方法論Ⅱ	1	30 (24) (6)	栄養摂取・代謝機能障害をきたした対象へ回復を促すための症状・検査や治療を理解し生活の再調整を促す看護を学修する。事例を通して、身体的・心理的・社会的特徴を理解した対象・家族への看護を学修する。	佐甲 美和	専任教員
					東 真由美	学科長
	成人看護学方法論Ⅲ	1	30 (26) (4)	造血・免疫機能・内部環境調節機能障害をきたした対象へ回復を促すための症状・検査や治療を理解し生活の再調整を促す看護を学修する。事例を通して、身体的・心理的・社会的特徴を理解した対象・家族への看護を学修する。	東 真由美	学科長
					田中 勝男	周東総合病院
	成人看護学方法論Ⅳ	1	30 (16) (14)	救急における初期診療の流れ、救急・重症患者のフィジカルアセスメントと看護について学習する。救急外来を受診する患者におけるトリアージの重要性、その視点やキーワードについて学習する。また、救急疾患、重症外傷の病態の基礎知識を学習する。主要症状から重症度を判断し、アプローチしていく特殊性と看護を学ぶ。	佐甲 美和	専任教員
					隅 敦子	専任教員
	老年看護学概論	1	15	老年期は、加齢性変化に伴った身体的・心理的・社会的変化がおこりエンドオブライフに向かう。老年理論や発達課題および超高齢化社会での倫理的課題、社会制度の学びを通して、老いを成熟・発達の過程としてとらえ、老いを生きる高齢者それぞれにあった看護を理解する。また、加齢性変化を理解し、高齢者に対する看護の基礎的知識を学修する。	南田 直子	専任教員
	老年看護学方法論Ⅰ	1	30 (20) (4) (4) (2)	加齢性変化を踏まえて、高齢者に多い脳・神経や運動器、感覚器の機能障害等をもつ対象に対する看護を学修する。事例を通して加齢性変化の理解をさらに深め、対象にあった生活指導を考える。また、それぞれの機能障害に合わせたリハビリテーションの演習をとおして、高齢者の生活を支援する看護の実際を学修する。	東 真由美	学科長
正司 真規					山口コ・メディカル学院	
島本 祐嗣					YICリハビリテーション大学校	
石丸 拓也					YICリハビリテーション大学校	
老年看護学方法論Ⅱ	1	30 (16) (14)	加齢性変化を踏まえて、高齢者に多い認知および排泄の機能障害、皮膚の障害、症状別看護について演習を通して学修する。また、高齢者の安全、災害、虐待、身体拘束などに対する社会的統計や関連する法律を学び、高齢者の権利擁護と看護の役割について理解を深める。	南田 直子	専任教員	
				磯部 純子	専任教員	

	科目	単位数	時間数	目的	講師名	所属
専門分野	小児看護学概論	1	15	今までの自己の成長を振り返りながら、小児の成長・発達の原則、小児各期の特徴を学ぶ。小児と家族を取り巻く社会の変化を理解し、定型の健康な小児の成長・発達について、グループディスカッションを行いながら理解し、健康な小児の養育の方法と実際を学ぶ。	磯部 純子	専任教員
	小児看護学方法論Ⅰ	1	30	小児にその健康を妨げる症状が出現した際に保護者とともに病院にくる。よって、小児看護の対象は小児および家族である。小児に出現する健康障害と健康問題が小児や家族に及ぼす影響を場面別に理解し、小児看護に必要な基本的姿勢や方法(プレバレーション)、小児に必要な看護技術を習得する。	河村 麻由子	外部講師
	小児看護学方法論Ⅱ	1	30 (16) (10) (4)	先天性疾患や後天性疾患および年代別に出現しやすい疾患について、病気の時期に合わせて看護を学修する。健康障害に直面した小児とその家族への支援について学ぶ。	磯部 純子	専任教員
					白松 裕	総合病院 山口赤十字病院
					宗東 博文	鼓ヶ浦こども医療 福祉センター
	母性看護学概論	1	15	次世代の健全育成を目指し、母性の一生を通じた健康の維持・増進、疾病の予防を目的とする看護を学修する。母性の概念や母性を取り巻く社会の現状や女性のライフサイクル各期の特徴及び性と生殖に関する健康と看護について理解を深める。	吉本 美恵	専任教員
	母性看護学方法論Ⅰ	1	30	妊娠・分娩・産褥期及び新生児期における対象を理解し、正常な経過を学び母児に対する看護を学ぶ。	吉本 美恵	専任教員
	母性看護学方法論Ⅱ	1	30 (26) (4)	周産期に起こりやすい健康障害を理解し、健全な母性の健康保持増進のための看護について学ぶ。	吉本 美恵	専任教員
					仲 貴乃	総合病院 山口赤十字病院
	精神看護学概論	1	15	精神看護学の基盤であるメンタルヘルスの概念や精神看護の目的や対象について学ぶ。また、精神看護の対象を取り巻く、精神医療の現状と現代社会が抱えるメンタルヘルスの問題について学修する。さらに、精神医療・看護の歴史、関連する法律や倫理について学び、精神看護の基礎となる知識を養う。	若林 一樹	専任教員
	精神看護学方法論Ⅰ	1	30	精神に障害をもつ人の抱える様々な健康問題について理解し、対象の疾患や症状、問題の特徴、および治療法について学修する。また、対象に合わせた看護について理解し、そのアセスメントや援助方法を学修する。	若林 一樹	専任教員
	精神看護学方法論Ⅱ	1	30 (22) (8)	精神に障害をもつ対象を取り巻く環境と、精神保健・福祉・医療における看護師の役割を学修する。また、対象へ精神看護を実践するための具体的方法を学修する。	若林 一樹	専任教員
					木村 竜一	医療法人和同会 片倉病院
健康支援論	1	30 (24) (6)	人の発達段階における健康課題について理解を深め、健康的に過ごすための看護について考察する。人々の健康支援の基礎理論を学び、健康の維持・増進を図るために、個人・集団における保健指導ができる基礎的能力を養う。	隅 敦子 若林 一樹 磯部 純子 吉本 美恵	元YIC校長	
				伊藤 悦子	専任教員	
健康課題解決活用法	1	30	専門領域で学習してきた健康状態別の知識を活用して、問題解決法をもとに対象のライフステージに応じた個別性にある看護を、事例を通して、学びを深める。	吉本 美恵 磯部 純子 佐甲 美和 木村 美保 若林 一樹	専任教員	
周手術期看護	1	30	急性期にある対象の身体的変化、対象やその家族の心理・社会的変化の理解を深めるとともに健康状態に応じた援助を学ぶ。また、手術に伴う身体侵襲とボディイメージの変化を理解し、手術後の機能障害・機能喪失に対する援助や手術後の継続的な自己管理に関する援助を学ぶ。	佐甲 美和 吉本 美恵 磯部 純子 木村 美保 若林 一樹	専任教員	

	科目	単位数	時間数	目的	講師名	所属
専門分野	薬物療法と看護	1	30	薬物療法における看護師の役割を理解し、発達段階に応じた看護を学ぶ。また、処方された薬剤の管理および対象に現れる作用・副作用を理解し、対象に応じた適正な薬物療法における服薬指導について事例を通して理解を深める。	隅 敦子 吉本 美恵 磯部 純子 佐甲 美和 木村 美保 若林 一樹	専任教員
	健康回復期看護	1	30 (28) (2)	回復過程を急性期からの治癒過程や症状が継続する慢性期までの広い範囲ととらえ、健康障害からの回復過程にある対象と家族に対して、健康回復に向けた看護を学修する。事例を通して発達段階や機能障害に応じた援助について考えることで、回復期における看護の理解を深める。また、外来でのがん治療過程にある対象とその家族の身体的・心理的・社会的支援の看護について学修する。	東 真由美 磯部 純子 木村 美保 吉本 美恵 佐甲 美和	専任教員
	終末期看護	1	30 (20) (4) (2) (4)	人生の最期を迎える人とそれを看取る家族の援助についての基礎的知識を理解する。その人らしい生を全うする援助について考えるとともに、人生のどの時期にも起こりうる死の意味や全人的苦痛の理解と尊厳性に対する援助を学び、自らの死生観を育む。	木村 美保 東 真由美 磯部 純子 吉本 美恵	専任教員
					岡藤 美智子	訪問看護おかふじ
					金子 美幸	総合病院 山口赤十字病院
					光永 祐子	総合病院 山口赤十字病院
	看護の統合と実践Ⅰ	1	15 (11) (2) (2)	看護管理の基本的知識を学び、多職種と連携・協働する中で、看護師としてのメンバーシップ・マネジメントに必要な知識と技術を学ぶ。	野崎 美紀 弓削 美枝 中元 智恵	副校長 医療法人聖比留会 セントヒル病院 医療法人聖比留会 セントヒル病院
	看護の統合と実践Ⅱ	1	30	看護研究の意義と文献検索及び活用方法などを事例研究のクリティークを行いながら学ぶ。また、実習での看護実践をケーススタディで振り返り、看護の実践を科学的にとらえる力や、問題意識を持ち看護を探究する姿勢を身につける。	隅 敦子	専任教員
	看護の統合と実践Ⅲ	1	30 (14) (2) (6) (2) (6)	学生が将来看護師として重大事故を起こさないことを目指し、「どうすれば安全に看護を行うことができるか」を演習を通して学ぶ。また、災害時に看護師として看護活動が行える基礎を身につける。国際看護では、世界の健康に関心をもち、外国人に看護ができるための基礎的知識を身につける。	高橋 朋子	専任教員
					米原 美奈子	山口県立 総合医療センター 医療安全室
					磯本 一夫	外部講師
					JICA	JICA
大庭 沙織					外部講師	
ディビス千春					JUS English代表	
統合技術演習	1	30	予定時間内での対象理解と看護援助の進め方、調整の仕方を学習する。また、看護技術の統合としてもコミュニケーション技術やフィジカルアセスメント技術、安全・安楽であり確実な基本援助技術、調整力について対象の状況に応じて統合しながら活用していく。そして、多重課題事例を通して緊急、突発の要件下での状況判断力と対応力を養うことをねらい演習を行う。	隅 敦子	専任教員	

	科目	単位数	時間数	目的	講師名	所属
専門分野・実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	40	基礎看護学実習Ⅰでは、看護活動の場のひとつである病院を知り、対象の生活環境と対象を理解するための視点および看護の実際を学ぶ。病床・病室は、対象が日常生活の大半を行う場であり、快適に過ごせるように整備する必要がある。実際の対象の環境を知り、環境を整える重要性を深く理解する。また、実際に対象とコミュニケーション能力を身につける。	隅 敦子	専任教員
	基礎看護学実習Ⅱ	2	80	看護過程Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ、ゴードンの枠組みを用いて健康上の課題を抽出し計画を立案する過程をもとに、実際の対象のアセスメントを行う。対象に起こっている反応とその原因・誘因を理解し、対象の健康上の課題を明らかにする過程を体験から学ぶ。合わせて、日常生活の援助技術を実施しながら、対象の理解を深める。また、主体的に看護を考え、今後何を学び深めていく必要があるのかという自己の学習課題に気づくことも課題とする。	隅 敦子	専任教員
	地域実習Ⅰ	1	40	防府市の実態調査や離島で暮らす人々の生活から、地域の特性による保健・医療・福祉の資源の違いを学ぶ。地域で生活する多様な健康レベルにある個人や家族の生活、集団における人々の相互作用(互助・自助)を地域の住民組織の活動を把握することを目的とする。さらに、対象者に対して積極的なコミュニケーションをとり、適切な関係を築くことについて実習を通して学ぶ。	三好 恭子	専任教員
	地域実習Ⅱ	1	40	健康状態やライフステージに応じた地域で提供される一次・二次予防を中心に学ぶ。地域で暮らす人々を支える病院・保育園などの保持増進し疾病を予防する活動を体験し、その地域やライフステージで起こりやすい健康課題を考えることで、問題を解決思考能力を強化する。また、体験を通して、健康課題を解決する地域資源を理解する。	三好 恭子	専任教員
	地域実習Ⅲ	2	80	拡大される療養の場において提供される看護やその役割、多職種との連携について実践を通し、理解する。また、個人・家族を看護の対象として、実際に集団指導を行い、一次予防について学びを深める。	南田 直子	専任教員
	在宅看護論実習	2	80	療養者と家族の生活の場である家庭や福祉サービスの場で対象者と関わり、抱えている問題やニーズについて考え、価値観を尊重、看護を展開しながら、在宅看護に必要な基本知識・技術・態度を学ぶ。また、保健・医療・福祉の専門職や多職種間の連携・協働は不可欠であり、看護師としてのケアマネジメント能力が求められる中、地域で看護師がどのような役割を担っているか、病院で行っている退院指導が退院後に在宅でどのように活用されているか、ターミナルケアを含む継続看護についても学ぶ。	木村 美保	専任教員
	成人・老年看護学実習Ⅰ	2	80	対象に応じた健康上の課題を解決するための看護展開の基礎を学ぶ。	隅 敦子	専任教員
	成人・老年看護学実習Ⅱ	2	80	急性期にある対象に応じた看護を学修する。身体の内部がどうなっているかを理解し、悪化を防ぐとともに回復を促進するための援助を実践から学ぶ。健康問題が心理的側面や社会的側面に及ぼす影響を総合的に理解しながら、生命の維持、症状悪化防止、回復促進に向けた看護を個別性に応じて展開する。	佐甲 美和	専任教員
	成人・老年看護学実習Ⅲ	2	80	回復・慢性期にある成人期から老年期の対象を統合的に理解し、その特徴を踏まえ看護が実践できる能力を養う。	内田 千里	専任教員

	科目	単位数	時間数	目的	講師名	所属
専門分野・実習	小児看護学実習	2	80	価値観や家族観の多様化、家族や地域社会の育児機能が変化する時代を背景に小児が直面する問題と健康に障害のある対象の疾患を理解し、対象を尊重し、成長・発達および健康レベルに応じた看護に必要な基礎的知識、技術、態度を学ぶ。また、幼稚園実習では、子どもの健全な成長発達を学ぶ。	磯部 純子	専任教員
	母性看護学実習	2	80	周産期に焦点をあて、「生命の誕生」の瞬間に立ち会い、新しい生命をはぐくみ育てる過程での援助を学ぶ。妊娠・分娩・産褥にある女性と新生児の一連の特徴を理解することによって、生命の誕生とその過程とその看護についての学びを深める。母性をめぐる社会変化と看護の役割のなかでより健康レベルの高い対象への継続看護の重要性を認識し、保健・医療・福祉の一員として母子の健康増進のために必要な看護を学ぶ。	吉本 美恵	専任教員
	精神看護学実習	2	80	対象との関わりを通して、精神障害について理解を深め、対象の抱える問題を統合的に捉え、看護過程を展開し、実践から必要な看護を学修する。対象の心の健康問題の回復において、多職種がどのように連携しているか、看護師に求められる役割はなにかを考えながら学修する。また、精神障害をもつ対象が社会資源を活用しながら、地域でどのように生活をされているのかを学修する。精神看護に必要な知識・態度・技術を身につけながら、精神看護を体験することで自分自身の基盤となる看護観を深めていく。	若林 一樹	専任教員
	統合実習	2	80	複数の患者を受け持ち、複数の患者に対して、援助の優先順位の判断、時間調整、および患者への配慮を学ぶ。また、病棟師長、看護主任、リーダーの役割、チームメンバーの役割、他部門との連絡・調整のシャドウイングをとおして、病棟の看護管理の実際を知り、チーム医療及び他職種との協働の中で看護師としての役割を学ぶ。医療チームの一員として看護実践を行うために必要な状況判断力、チームにおける調整力と看護技術力を養うことをねらいとし、臨床に出て働く自覚と責任感を学修する。	木村 美保	専任教員
	小計	66	2015			
	総計	102	2885			